

エダマメ 肥料は控えめに



大豆を未熟なうちに収穫するのがエダマメ。タンパク質、ビタミンA、Cを多く含み、ビールのおつまみとして夏の栄養補給に最適です。

【品種】

一般には早生品種の「三濃錦」(不二種苗)があります。風味の良い茶豆では「湯あがり娘」(カネコ種苗)や「涼風」(トーホク種苗)などがあります。

【畑の準備】

種まき2週間前に1平方m当たり苦土石灰100gを散布し、よく耕しておきます。1週間前に化成肥料

図1 ベッド作り

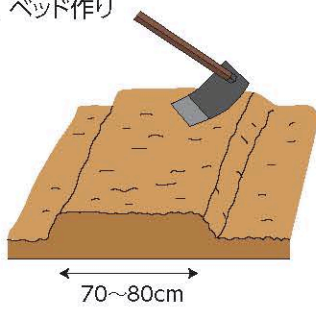


図2 種まき

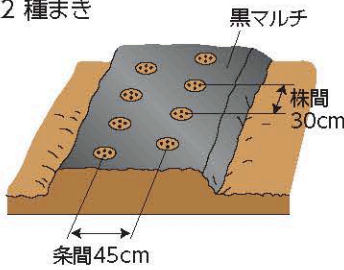
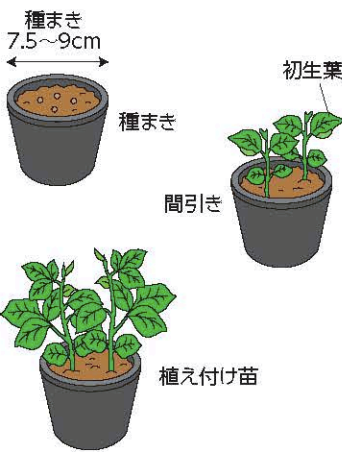


図3 ポット育苗



花後から30~35日で株ごと引き抜いて収穫します。収穫適期は3~5日と短いため、同じ品種なら時期をずらして2~3回に分けて種まきすると、長く収穫を楽しめます。

(NPK各成分で10%)100gと堆肥1~2kgを施し、よく混ぜ込んでおきます。その後、畝幅70~80cm、高さ5cm程度の栽培床(ベッド)を作り、

黒色のマルチを張ります(図1)。

【種まき】

地温が15度以上になった頃からが種まきの適期で、一般地では遅霜の恐れがなくなる4月下旬~5月となり、6月以降では害虫の被害を受けやすくなります。条間45cm2条、株間30cm、1力所に3~4粒まきます(図2)。鳥害を防ぎ発芽を良くするため

に、不織布のベタ掛けが有効です。本葉2枚の頃、生育の劣る株をハサミで根元から切り取り、2本立ちにします。

気温が低い時期や鳥害を避けるためには育苗する方法もあります。この場合、直径7.5~9cmのポットに

3~4粒まき、初生葉しよせいようがそろそろ頃に間引きして2本残し、本葉2枚頃まで育苗します(図3)。

【病虫害の防除】

高温期にはカメムシ類が発生し、さやに付くと落下します。開花期にスミチオン乳剤、トレボン乳剤などの登録農薬で防除します。

【収穫】

さやが膨らんで、指で押さえるとはじけるようになれば収穫期で、開